



# ウェッブアイカップ2022プロボウリングトーナメント

9月2~4日  
東大和グランドボウル

## 初代チャンピオンは山本勲！

### 故・龍隆行プロに並ぶレフティー最多の17勝目



◆▲新設のビッグトーナメントを制し、今期最高額の優勝賞金300万円をゲットした山本

今期最高額の優勝賞金300万円が懸かった注目の新設トーナメント「ウェッブアイカップ2022」にはプロ144名・アマ34名の計178名が参加。予選16G・準決勝6G・決勝ラウンドロビン(RR)12Gの長丁場を経て上位4名が1Gマッチの決勝ステップラダーにて覇を競った結果、トップシードの山本勲(44期・ABS)が栄えある初代王者に輝き、故・龍隆行プロ(8期・2017年没)と並ぶ左投げ(レフティー)最多の通算17勝目に到達した。(主催：株式会社ウェッブアイ/特別協賛：株式会社JVCケンウッド、大和ハウス工業株式会社)

### リアクティブでつかんだV

今大会の出場178選手中、レフティーは22名。うち10名が予選を突破し、準決勝敗退もわずか3名。RRを経て決勝ステップラダーに勝ち上がった4名はすべてレフティーだった。

その大半がウレタンボールを使用するなか、山本はリアクティブボールを投げ続けた。

「自分もウレタンを投げることはあるけど、それでスコアを稼ぐという感覚はない。逆にリアクティブを自分なりに操ったほうが安心感がある。今回、左



▲267を打った3位決定戦から一転、優勝決定戦は2オープン182で完敗の小原。「ウレタンがレーンの変化を感じ過ぎた。左レーンが遅くなっている、右レーンの投球も不安になってしまった」

はみんなウレタンばかりで、正直不安でしたが」

予選はスタートの3Gで564と大きく出遅れたが、「ゲーム数の多い今回の大会フォーマットなら取り返すチャンスはあると思った」と慌せず、16G終了時には3709(231.81Avg)のスコアをマークして3位通過。続く準決勝6Gでも1453(242.16Avg)を打って同位置をキープし、RR9G目終了時点でついにトップに躍り出る。その後、11G目の小原照之戦を177:215で落として2位に後退するも、最終ポジション



▲ひとりリアクティブボールを操って勝利した山本。「自分の真似をだれができるの?と思える間は今のスタイルでいきます」



▲(左)準決勝まではトップを快走していた江川も、結果は3位フィニッシュ。「左が多く残ると、ウレタンで同じようなラインを投げるので変化が早く、戸惑ってしまう」(右)予選10位からコツコツと順位を上げ、末席で決勝ステップラダーに滑り込んだ堀ノ内だが、4位決定戦は4オープンと大崩れ。「3、4フレが薄めに行ってスプリット。焦ってしまっただけで対応が遅れた」

マッチでの再戦で214:176と雪辱し、見事トップシードを獲得した。

「ラウンドロビンは勝ちを落としたゲームも多かったけど(7勝5敗)、スコアを崩さずにしたの。同じラインを投げる左のウレタン勢が6人残っていて、オイルを削ってつぶし合う状況にも助けられました」

三たび小原との対決となった優勝決定戦は、2フレからの

267。さすがだなと思った。でも、優勝決定戦は多少外ミスが許される状況になっていたもので、スピードが出過ぎないようにと言いつつ投げた。最後、手前のオイルがなくなっていたのが勝負の分かれ目になったのかなと思う」

一方、敗れた小原は

「ウレタンを使っていないと(上位に)残れないなかで、リアクティブで優勝した勲さんとはとても強く強いということ」と、まさに脱帽のテイだった。

これで山本は故・龍隆行プロと並ぶレフティー最多の通算17勝目。それは初代王者の栄光や今期最高額の優勝賞金以上に、山本にとっては大きな価値があることのように。

「左投げの最多勝に並べたのはうれしい。もうひとつ階段を上ればトップに立てるわけだし、そうになったら(永久シードの)20勝も見えてくるし(笑)」

優勝ボール：900GLOBAL (ABS)ZEN SPIRIT



▲表彰式後の記念撮影。左端は大会会長のウェッブアイ・森川勇治社長、その隣が同実行委員長鈴木馨、右端はベストアマ(総合11位)の八鍬良太選手(立川スターレーン)

#### ●優勝決定戦

小原 照之									
8	2	3	4	5	6	7	8	9	10
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
20	49	69	87	96	116	136	156	174	182
山本 勲									
9	2	3	4	5	6	7	8	9	10
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
20	50	80	109	129	149	169	188	207	227

#### ●決勝ステップラダー

山本 勲	227	優勝
小原 照之	267	
江川 司	213	
堀ノ内智大	163	
	182	
	236	



NBF50周年記念

## 白石雅俊インビテーションショナルボウリング大会

9月19日 MKボウル上賀茂

### 大型台風接近のなか、68名が参加して開催！



▲台風14号接近のなか、68名の会員ボウラーが参加してボウリングを楽しんだ(©NBF・以下同)



披露 ▲予選の合間には祝園の舞妓さんが登場し、アブロイチ上での艶やかな舞を

催に踏み切った。その結果、直前にブラインドを申し出た選手もいたが、前日まで行われていた「第49回全日本トリオボウリングフェスティバル」(18・19日、愛知・稲沢グランドボウル)から連戦の選手も多く、最終的に68名が参加して競技を楽しみ、この日はゲストとして来場した白石理事

長と和やかに交歓した。競技は年齢性別ハンデありの個人戦で、予選(6G)・準決勝(2Gマッチ)を経て上位8名が2Gマッチの決勝を戦い、岡英司選手(稲沢グランドボウル)が510(HC20)のスコアで優勝を飾った。

なお、前日決勝が行われた全日本トリオフェスティバルは、千葉・あすみが丘支部の武田克巳・鹿野勢七・斎藤将弘チームが制している。



▲表彰式では男女最高齢参加者にも記念品が贈呈された。左から熊谷裕子選手(88歳/山形ファミリーボウル)、白石理事(90歳)、伊藤勘一郎選手(79歳/ラウンドワン新潟店)

日本ボウラーズ連盟(NBF)は祝日の9月19日、「白石雅俊インビテーションショナル」と銘打った50周年記念大会を京都・MKボウルで開催した。

折悪く、当日は九州に上陸し

た大型台風14号が関西方面に接近中。各地で通行止めや列車の運休が発表されていたことから、主催者サイドは参加予定者に「無理せずに出場辞退も含めて判断を」と通達した上で開

催に踏み切った。その結果、直前にブラインドを申し出た選手もいたが、前日まで行われていた「第49回全日本トリオボウリングフェスティバル」(18・19日、愛知・稲沢グランドボウル)から連戦の選手も多く、最終的に68名が参加して競技を楽しみ、この日はゲストとして来場した白石理事